

## 【座談会】— 内定者大いに語る「就職活動は“自分探し”」

景気と雇用の回復傾向を背景に、「バブル期をしのぐ売り手市場」とマスコミ等で報じられた07年3月卒業予定者の就職戦線。しかし実際に活動した学生たちにとってその実感はあったのか。企業選びのポイントは。面接で心がけたことは。自己PRで何を訴えたのか。落ち込んだ時に支えになったものは……学生生活の“集大成”となる就職活動(就活)にいかに関与したのか。内定が決まった6人の4年次生に思う存分語ってもらった。

●座談会出席者(いずれも4年次生、カッコ内は学科と内定先・業種)＝敬称略

▽伊藤 洋志(経済学科、建築工事業) ▽松本 典子(法律学科、三井住友銀行) ▽笹目 光子(経営学科、東京海上日動火災保険) ▽郷 佳久(商業学科、シャープ) ▽加藤 三佳(人文学科、農林中央金庫) ▽今井 亮太(ネットワーク情報学科、イー・アクセス)

司会＝就職課・奈良 隆幸

### 活動中の実感

## 「売り手」でも厳しさが 周囲の人に支えられて

司会 採用環境もよくなり、求人倍率が1年先輩の1・60倍に比べ、皆さんの代では1・89倍でした。就職希望の学生100人に、189の「席」があったという環境で就職活動をしたことになりました。皆さんの実感はいかがでしたか？

郷 「つらかった」というのが実感。3月まで面接で1社も受からず、4月になってやっと面接に通りました。

今井 4月に「最終試験」に通るようになりましたが、その前は途中で失敗が多く、結局、5月に内定をもらいました。

松本 枠が広がったといえども企業側は、私たちのことをよく見ていて感じました。「うちの会社は第一志望ではないでしょう」と指摘されたこともありました。

笹目 人物をよく見ていると思います。質問内容も大きい会社ほど鋭く、いい人材を探りたいということが伝わってきました。

伊藤 最初のころは思った通りにいくと自信がりましたが、いざ取り組んでみるとなかなか決まらず、倍率に関係なく厳しさを感じました。

加藤 求人倍率が高いと言われた金融をメインにしましたが、よりすぐっている、より良い人材を集めようとしているのを感じましたね。

司会 これは厳しいぞ、と分かった時、皆さんの取り組みは変わりましたか。

笹目 私は変えなかったです。自分を受け入れてくれる会社は絶対あると思っていましたから、あえてつらくったりはしませんでした。就活の半年間は、すべて自己分析の時期と考えました。最終的には5月に内定をもらいましたが、自信を失った時に気づくこともあります。そこで落ち込んだらマイナスになってしまう。就活に対する意欲を絶えず持っていることで、自然と自信がついてくると思います。

郷 うまくいかなかった時期、集団面接の隣の学生の学歴が気になりました。サークルの活動



▲議論が白熱した座談会



▲3年次生への就職支援プログラム「学内キャンパスOB・OG訪問」=12月9日、神田キャンパス

のことを中心にアピールしてきた自分は「だめかな」と思いました。しかしある時、自信を持って臨むことが大事なのだと分かりました。

松本 これまでやってきたことに自信を持つことは大事です。堂々と振る舞うことも。

今井 その気持ちが保てない時期がありました。最終試験で落ちた時はまた一からやり直しかと、めげました。最終的には、自信を持たないと面接は通らない、と気持ちを切り替えましたが。

郷 就活へのモチベーションを保つために、なるべく多くの社会人に会ってお話を聞くようにしました。学校のOBに話を聞いてもらったこともあります。

加藤 私は楽器(トランペット)をやっているのですが、グループの先輩の体験を聞き、落ち込んだ時、カベに当たった時、参考にしました。カベに当たったのは、3、4月の時。自分自身をよく見せようと、つくろっていることに気づきました。それまでは総合職に就きたいと思っていたのですが、「裏方」の役割の方が適していると気づいたのです。そこで一番高いカベを乗り越えることが出来ました。自分と周りの意見を素直に受け止めたことがよかったのだと思います。

松本 何をしてきたか、「軸」探しをしていく中で、自信がついていくのだと思います。自分の「軸」がしっかりあれば、精神力が保てると思います。

伊藤 結果が出ない時なぜ、自分を認めてくれないのか疑問を持ちました。カベにぶつかった時は就職課に行って、本日司会の奈良さんに相談しました。「今のままで行け」とアドバイスされ、自信ができました。なんでも話せる人を見つけることも大切だと思います。

司会 就職活動は一人でやっているようで、実はいろいろな人に支えられていると思います。

郷 あらためて、友達や先輩がすごく大切だなと感じました。一人暮らしなので、就活はしっかり食べていないと続かない。週に1回は友達と会って食べたり飲んだりストレスを発散しました。バイト先の先輩に話を聞いてもらったこともあります。

伊藤 部活(サッカー部)を続け、就活時も休まないようにしました。みんなが頑張っている姿を励みにしました。就活中も部活を通して成長出来たというのが大きな収穫です。

笹目 就活では、友達も同じ悩みを抱えているので、刺激し合ってきました。趣味(バスケットボール)を持っていたのもよかったです。行き詰まった時こそ就活以外の時間を大切に、気分転換をしてきました。人と触れ合うことは大事だと思います。

今井 1週間のうち「この日は空けておく日」を作りました。友達と一緒に遊ぶなどで、リフレッシュしました。

加藤 自分の時間を大切にしないと就活にのみ込まれてしまうような気がしました。相談相手は友達やバイト先の先輩などたくさんいたのですが、その中でも、就職課の方にお世話になりました。今まで関係のなかった人に、自分を見てもらうことが大事だと思います。

松本 活動中、波に乗っているのが分かるのが楽しく、企業に行くと人と話をするのが面白かったです。毎日、吸収していくことが楽しかったですね。

笹目 1次、2次と面接の回を重ねるごとに自信がついてきました。会社が認めてくれたことで、応えたいと思いました。

## 【座談会】— 内定者大いに語る「就職活動は“自分探し”」

### 自己PR、面接

## 面接では自身を正直に 最後まで自信を持って

司会 自己PRを作成する時の注意点や配慮した点などを教えてください。

今井 誇張しない。やっていないことは絶対書かない。自分らしさを出すようにしました。その自分らしさとは、自己分析していく中で強み、弱みを把握し、今まで歩んできたことを振り返り、それを基に作成しました。

郷 エントリーシートに、何をやってきたかをなるべく具体的な数字や固有名詞を出すようにしました。

笹目 自分とはなんだろう。最初にぶち当たる課題ですが、自分のことは意外と分からないもの。人に聞いて「他己分析」してもらいました。そこで私はこういう人間だと理解し、そこから過去を振り返って今の自分につなげていくことで、まとめていきました。

松本 自己PRは、3パターン作り、使い分けしました。会社によって求められるものは違うと思いましたので。使い分けたとっても内容がまったく違うわけではなく、どこのところを一番にするか“押す”ところを変えていきました。幸い、一番の強みをPRしたところに内定が決まりました。

今井 私も複数パターン作りました。ベンチャー系と大規模の会社とで使い分けました。

郷 私は使い分けが出来ず、失敗しました。しかし結果的には変える必要はないと思いました。

笹目 要は、自己をしっかり持っているかどうかだと思います。企業が学生に対して最も見ていることは、3年間何をしてきたかだと思います。振り返ることは大事ですね。

司会 どういう道に進みたかったか、企業の選び方のポイントや内定先との出会いを聞かせてください。

加藤 「社風」です。自分が働くイメージが作れるかどうかです。また面接の雰囲気も大切で、「人」を大事にしているかを考慮しました。働きがいがあるかどうかです。

笹目 面接の雰囲気です。面接がしっかりしている会社は、入社しても勉強になる場所だと思います。実際、内定先は、他の会社と違う独特の面接でした。

伊藤 見えっ張りのところがありましたから、最初は、名の知れた会社しか目に入りませんでした。実際、就活を進めていく中で働く上での環境を考えました。決まったところは、そういった環境がいいところです。

今井 高校の時からやりたい業種が決まっていました。実際に内定をいただいた会社は、携帯電話の業界に新規参入すると聞き、面白いと思いました。携帯電話の進化に興味を持っていますので、そういった仕事に就くことになり、喜びを感じます。上下関係がないところも魅力です。

郷 時代の節目で生活が変わっていく。そこに自分が関わって、人々の生活を変えていきたいと思いました。最初、業種は絞っていなかったのですが、新しいものを生み出す会社がいいと思い、それを基準に業界の中でランク付けをしていきました。内定先との出会いは、友達のお父さんが働いていたところだったのです。その方と実際にお話をして「商品にプライドを持って売らないとダメだ」と言われました。商品に自信を持ち、新しい価値に携わっていきたくて思い



▲「総合就職合宿研修会」で面接の特訓  
 =11月25、26日、池袋サンシャインプリンスホテルで

ました。

松本 内定先は、実際に社員の方と会って、スーツと入っていける人たちばかりでした。一緒に働きたいと思う人がいるかどうか、それが決め手となりました。結局「人」ですね。面接では、心の中に色に染まっていない白いパレットを持つようにしました。自己主張しすぎないこと、柔軟性を持つということです。

笹目 女性がいきいきと働いている会社かどうかをポイントにしました。社内の女性社員を見て、女性が信念を持って働いているかどうかを見るようにしました。

加藤 生活に密着した仕事に携わりたいと思っていました。内定先は、女性も定年退職まで働く人が多いと聞きました。長いスパンで働けるところがいいと思っています。

司会 面接で自分を売り込む際、心がけたことは。

笹目 自身をアピールするだけでなく、相手の話をよく聞くようにしました。そこから、こういうところを求めているのだと理解するようにしました。

松本 きちんと、質問の内容に答えているか。話の長さは適切か。相手の心をつかむキーポイントを出すようにしました。抽象的にならず、具体的に話すようにしました。「私はこう思いますが、いかがですか？」と会話のキャッチボールを心がけました。基本的な身だしなみチェックは必ずしました。

加藤 最低限の礼儀を大切に。あいさつは、入る時から出る時まで気を配りました。

郷 あいさつとノックは元気よくしました。会社に入る前は、深呼吸して「よし行くぞ」と気合を入れましたね。

伊藤 当たり前のことを当たり前にしてきました。何も考えず、「シンプル・イズ・ベスト」のつもりでした。

笹目 「これは言っておきたかったのに」と後悔をしないように、言いたいことを全部言うようにしました。自分自身を隠さないことが大事だと思います。そこが売り込んできたことになるのかもしれない。相手は企業の高いポジションにいる人たちですが、町では普通の人。そう考えると、緊張する必要はない。ですから、すべてが楽しかった。

一同 面接は楽しかったですね。

司会 活動中に起きた失敗やエピソードがありますか？

松本 役員面接まで行ったのですが、そのあと突っ込まれて弱気なところを見せてしまい、“決まり”の握手をもらえなかったことがあります。最後まで気を緩めてはダメですね。

郷 2次面接で英語面接がありました。「これを訳して」と英語の記事を渡され、すっかりあがってしまって。結論部分のみを訳したら「要点はつかめているね」と言われました。履歴書の英語力をためされたのかもしれない。

笹目 最終面接で面接官に怒られました。その会社の説明会、セミナー、OG訪問を一つもしなかったことを指摘されたのです。結局、もう一回面接して、「やる気」確認をされました。

加藤 説明会に行く時、会社の地図や電話番号を忘れ、1時間前に最寄りの駅に着いたのに、結局分らず帰ったことがあります。気になっていた企業だっただけに大ショックでした。

## 【座談会】— 内定者大いに語る「就職活動は“自分探し”」

### 後輩にメッセージ

部活や出会いが起きた 笑顔と元気があれば…

司会 就活においてやってきてよかったこと、やってあげよかったことは。



▲「学内OB・OG訪問」で先輩社会人の話を聞く

今井 OB訪問をすればよかったと思います。あらかじめ会社や社会人の雰囲気を知ること、話を聞くことで役に立つことがあると思います。

笹目 私もOG訪問はすべきだと思いました。エントリーして面接を受けることだけでなく、その準備段階が大事だと思います。

伊藤 部活です。日々、変化していたし、刺激も得ました。それを面接でアピール出来たことはよかったと思います。しかし、面接での心構えや企業研究など基本的なことに取り組んでこなかった。エンジンがかかるのも遅かった。もっと早めに取り組まないとダメだと思いました。部活以外に「これだ」という自分がやりたいことが見つからなくて、あせっていました。いろいろなことを経験して興味を持ち、挑戦することは大事なことでと思います。

松本 私も何をしたらいいのか分からず、それを必死に探す4年間でした。後輩には、目標を持って「私は大学生活で、これをしてきました」と言えるものを作ってほしい。

笹目 バイトで接客業を経験、そこでいろいろな人を見て、話をして、「こういう人もいるんだ」と分かり、人と話をしてきてよかったと思いました。就活とは人との出会いが生きる場だと思います。話をする機会を出来るだけ増やした方がいい。

今井 テニスのサークルに入っていたことです。面接でも、その話が中心になりましたので、テニスをやっていなかったら何を話していいか悩んだと思います。

司会 就活で成長したこと、身につけたものがありますか。

松本 人のために何かをしたいというテーマがありましたから、就職での方針はすんなりと決まりました。自己分析を進めていく中で自信ができました。それが得た大きなものです。自分はこういう人間だと分かりましたから。就活で将来が見えてきて、自分のスタイルが見つけれられました。

郷 いま出来ることをしっかりやる、ということを学びました。結果が出ようと出まいと、あきらめずに行動することが大切だと思います。

笹目 頑張り過ぎないことです。一つのことしか見えなくなって、それに追い込まれていったことがありました。ほかのことにも目を向けて、同時進行させることも必要です。

加藤 自信を持って取り組めば、自然と結果が出てくると思います。

今井 あきらめないこと。最後まで投げ出さないこと。

伊藤 自分の長所は何かを考えました。その長所を生かすには、人と密に付き合っていく仕事だと、最後の方で分かってきました。

司会 就活に取り組む3年次生へのアドバイスをお願いします。

郷 情報を得ることは大切だと思いますが、その情報をうのみにしないで、自分のフィルターを通して、判断してほしい。損得で動いてはダメですね。

松本 就活を楽しんでください。チャンスはいっぱいあるから、逃さないように。

伊藤 世間体を気にせず、名の知れた会社にばかり目を向けるのではなく、自分自身が納得する会社選びをするのが、カッコいいと思う。一生懸命取り組めば、きっと何かが見つかると思います。

今井 最後まで自分を信じて。今の会社の状態だけでなく、10年先20年先の長いスパンで会社選びをしてほしい。

加藤 企業を選ぶ上でも就活の上でも、その人なりの信念を持って取り組んでほしい。

笹目 起伏はあるけれど、自分を見失わないで、と言いたい。人生はどうにかなるもの。笑顔と元気があればいいと思います。